

◎礼拝説教：2020年2月2日

◎説教者：中村準一 牧師

◎タイトル：キリストに捕らえられた者

◎今日の聖書：エペソ人への手紙3章1節～7節

1こういうわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となっているこのパウロ- 2わたしがあなたがたのために神から賜った恵みの務について、あなたがたはたしかに聞いたであろう。 3すなわち、すでに簡単に書きおくれたように、わたしは啓示によって奥義を知らされたのである。 4あなたがたはそれを読めば、キリストの奥義をわたしがどう理解しているかがわかる。 5この奥義は、いまは、御霊によって彼の聖なる使徒たちと預言者たちとに啓示されているが、前の時代には、人の子らに対して、そのように知らされてはいなかったのである。 6それは、異邦人が、福音によりキリスト・イエスにあって、わたしたちと共に神の国をつぐ者となり、共に一つのからだとなり、共に約束にあずかる者となることである。 7わたしは、神の力がわたしに働いて、自分に与えられた神の恵みの賜物により、福音の僕とされたのである。

◎宣教

はじめに、パウロは自分のことを、キリスト・イエスの囚人であると言っていますが、なぜでしょうか。それは、以前、律法に燃えていた人物である「サウロ」は、キリスト者、教会を迫害していました。それがダマスコ途上で復活のキリスト・イエスと出会い、劇的に変えられ回心に導かれました。そのことによって、彼のその後の生涯が180度変えられ、全身全霊をもって、キリストの愛に応えていくことになったからです。彼は名前も「サウロ」から「パウロ」（小さきもの）として生まれ変わったのです。その後「キリストの奥義」（神様の秘められたご計画）が、啓示によってパウロに知らされたのです。パウロは言う。自分への任命は、ただ神の恵みによるのであると。さて、彼の任務とは、福音を異邦人に宣べ伝えることでした。その内容は、福音によりキリスト・イエスにあって、異邦人もユダヤ人と共に共同の相続者となり、共に一つのからだになり、共に約束にあずかる者となるということなのです。このようにパウロは、キリストの囚人として、彼の任務を走り続けたのでした。